



## 「脳卒中」と

## 「慢性硬膜下血腫」



国保成東病院  
副院長(脳神経外科)  
なか  
みさ  
お  
田中  
幹雄  
医師

脳の病気の中で、頻度の多い脳卒中（脳血管障害）と、頭部外傷のなかで比較的頻度の多い慢性硬膜下血腫のお話をします。

「脳卒中とは」 脳血管障害のことで、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の総称です。今まで普通に生活していた人が、ある日突然意識がなくなったり、言葉が出なかつたり、片方の手足が動かない、しごれるなどの症状が急に出現し、後遺症として残ってしまうことが多い脳の病気です。認知症の原因にもなります。頻度はそれぞれ60%、30%、10%の割合になっています。

診断はCTスキャン、MRIなどで行います。診断はCTスキャン、MRIなどを行っています。

「くも膜下出血とは」 脳の表面をおおっているくも膜の下

「脳梗塞とは」 脳を養っている血管が閉塞し、神經細胞や神經線維が死んでしまう病気です。症状は手足に力が入らない、しづれる、ロレツがまわらないなどです。原因是高血圧、脂質異常症、心臓疾患（心房細動など）です。原因によって違いますが、点滴治療が主となります。早期にリハビリを始めます。

「脳出血とは」 脳の中に出血する病気です。症状は脳梗塞と同じですが、出血量が多いと意識がなくなったりします。原因は高血圧がほとんどです。治療は生死にかかる場合には手術を行うことがあります。大体は内科的治療です。

（髄液という水が入っている）

に出血する病気です。つまり脳の表面に出血する病気です。す

べなりません。症状は、今まで

経験したことのないような激しい頭痛が急におこり、嘔気・嘔吐を伴います。通常マヒはなく、重症の場合は昏睡状態となります。原因是頭の太い血管の分岐部でできたコブ（脳動脈瘤といいます）が破裂しておこります。

治療は再破裂を予防するための

脳動脈瘤の処置です。クリッピングという開頭手術や、開頭せずに血管内手術という方法も行

われるようになりました。いろいろな合併症をおこすために怖い病気といわれています。

### 「慢性硬膜下血腫」という病気

治療すれば治る認知症のひとつです。軽微な頭部打撲のあと数週間から2～3か月後に症状

が出る病気です。とくにお年寄

りに多い傾向があります。症状

は軽く頭をぶつけたあと、だん

だんと進行するマヒや（歩けな

くなる、箸がうまく使えないな

ど、物忘れなど認知症と思わ

れる症状が出てきます。家族は、

年せいだ「ぼけ」の始まりじゃ

ないか、などと思つたりします。

このような症状が出てきたら脳

神経外科を受診してください。

CTをとればすぐに診断がつき

ます。この病気は、頭蓋骨の下

にある硬膜と、脳の間に（つま

り硬膜下に）徐々に血が溜まつて脳を圧迫するのです。治療は局所麻酔で頭部に穴を開け、頭蓋内の血腫を取り除く簡単な手術です。症状としてのマヒや認知症は驚くほど改善します。手術せずに内科的に治療することもあります。

り硬膜下に）徐々に血が溜まつて脳を圧迫するのです。治療は局所麻酔で頭部に穴を開け、頭蓋内の血腫を取り除く簡単な手術です。症状としてのマヒや認知症は驚くほど改善します。手術せずに内科的に治療することもあります。

### 地域医療 Q&A

市民の皆さんからいただいた地域医療、救急医療についての質問を、シリーズでお知らせしています。

**【Q】赤ちゃんのうんちはいつも下痢状態ですが、緑色のうんちは病気の前兆ですか。**

**【A】**赤ちゃんは下痢をしやすく、うんちの色はさまざまです。ミルクや母乳、離乳食のメニューなどにより変わりますが、茶・黄・緑色のうんちは病気ではありません。しかし、赤・白・黒色のうんちは病気の可能性があるため、注意しましょう。

排泄の回数や状態には個人差があります。普段から赤ちゃんをよく観察し、下痢以外の症状がないかを確認しましょう。イチゴジャムのような粘血便がでたり、水分がとれない、尿がでなかつたりしたら、医療機関を受診してください。

(千葉県小児科医会発行の子どもの急病ガイドブック参照)

問合せ 健康支援課保健予防係  
☎0479(80)8383

問合せ

国保成東病院地域医療連携室  
(82)2521

終わりに：脳卒中は予防が大切です。血圧の管理、禁煙、適当な運動、バランスの取れた食事を心がけてください。また脳ドックは脳の健康診断です。MRIで脳腫瘍の有無、脳卒中の傷跡（隠れ脳梗塞など）、脳動脈瘤の有無等が分かります。ぜひご利用を。

（千葉県小児科医会発行の子どもの急病ガイドブック参照）